



■最近の話題

「岩木川水系のきれいな水を守る子どもサミット」が開催されました

平成28年11月5日（土）、青森市浪岡の中世の館において、平成28年度「岩木川水系のきれいな水を守る子どもサミット」が開催され、環境保全に関心のある児童・保護者や農林漁業団体、土地改良区、環境NPO法人、市町村、県など、約200人が参加しました。

本サミットは、県が進めている「攻めの農林水産業」の施策の柱の1つである「山・川・海をつなぐ『水循環システム』の再生・保全」に向けた取組の一環として、今年度、水循環に係る活動(水の旅等)に参加した5つの小学校等が集まり、活動内容を発表することで、次代を担う子供たちの水資源を大切にすることを目的に開催されました。

冒頭、三村知事からは、「豊かな水循環が維持されることで、農業や漁業、そして私たちの生活は成り立つ。水は限りある資源であり、このきれいな水を守るため、県では『山・川・海をつなぐ水循環システム』の再生・保全に向けた『環境公共』などの取組を進めてきた。今日は皆さんがそれぞれの学校で一生懸命調べてくれたこと、水がどんな役割をして、その水で農業や普段の生活がどのように営まれているのかを発表し、また学んでもらいたいと思う。」とあいさつがありました。



【あいさつを述べる三村知事】



【板柳町立板柳東小学校のみなさん】

あいさつに続いて、参加した小学校等による活動事例発表が行われました。児童たちは、自分たちの住む地域の農業水利施設や田んぼの見学等を通して、施設の役割や生活と農業に不可欠な「水」の流れを学び、多くの農作物を作るためにはきれいな水が必要であること、先人たちはその水を確保するために様々な苦勞をしてきたこと、水の循環を守り、水をきれいにすることで多様な生物が棲めるようになることなど、学習したことを元気よく発表しました。

事例発表の後は、五所川原農林高等学校の奈良岡隆樹教諭が「岩木川周辺の少し気になる生き物たち」をテーマに講演を行い、県内の絶滅危惧種や特定外来種を紹介しながら、生物の多様性を高めるためには、多様な環境が必要であること訴えました。

最後に、各小学校等の代表児童が「サミット宣言」を行い、きれいな水を守ることへの思いを力強く宣言し、本サミットは盛況のうちに閉幕しました。



【代表児童によるサミット宣言】

■「環境公共」事例紹介

三戸地区（三戸町） ～公共牧場の整備による肉用牛の生産コスト低減と生産拡大～

1 地区の概要

青森県三戸町は、県内でも有数の肉用牛生産地として知られていますが、特に子牛を生産する繁殖雌牛の飼育が盛んな地域で、古くから、夏は「山」にある公共牧場で放牧され、冬は「里」で舎飼する「夏山冬里方式」で飼われてきました。

現在、三戸町の唯一の公共牧場で、町、肉用牛農家にとって大切な財産である三戸深山牧場の整備が進んでいます。



【管理作業に苦慮している急傾斜の現況草地】

2 活動内容



【整備した草地での肥料散布作業】

三戸深山牧場は、昭和40年代に造られて以降、近年では経年による草地の荒廃や異常気象による大雨などの影響から、牧場の維持管理に支障を来すなどの課題が生じていました。

このため、地域の肉用牛生産者等を中心とした三戸地区環境公共推進協議会では、できるだけ土地の形状を変

えない山成工を基本としながら、牧場管

理のための必要

最低限の起伏修正やひ陰林^(注)を適度に配置するなど「牛」と「景観」に配慮した牧場整備について検討を重ねてきました。また、牧場整備を機に、入牧・退牧や衛生検査のほか、牧場景観の維持等のための協働作業により、地域コミュニティの維持・発展を目指すこととしています。

(注：牛が暑熱時の日光や雨露を避けるための林)



【三戸深山牧場での牛体検査】

3 今後の取組

三戸深山牧場の整備は平成30年度で完了する予定ですが、今後とも環境公共推進協議会では、牛と景観に配慮した牧場の整備を進めていくとともに、協働活動をより一層充実させ、整備した牧場の維持管理と肉用牛の生産拡大に努めていくこととしています。